

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事]う

事業所番号	0191400316		
法人名	株式会社 秀		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	函館市富岡1-54-17		
自己評価作成日	H27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年2月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0191400316-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成27年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活を送りながらも、各自が自分なりの生活スタイルを維持できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街に設立されている木造2階建て民家改装型の1ユニット(定員8名)の家庭的で落ち着いた雰囲気を有するグループホームです。管理者・職員の離職があり、引き継いで間もない現任の管理者は、家族からの職員の定着の要望を受け止めて安定したケアサービスの提供に取り組んでいる最中であると共に利用者が地域の中でつながりながら暮らして行けるように支援に努めています。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の 理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケアプランを通して利用者個別に沿った支援を出来るよう、情報を共有し業務に繋げるよう努めている	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくりあげ、毎月の会議や日常業務を通じて職員間で共有し、その実践につなげるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の行事や避難訓練などを行うことで地域の方の協力を増やす様努めている	避難訓練や事業所のお祭り等の開催で、地域の人達との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族との外出や職員等との通院と外出する機会をもち社会との関わりを保つように努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では町内会・包括支援センター・市の職員の参加を含め今の制度のあり方や、町内会の様子、高齢者を取り巻く現状報告をし、家族同士とのコミュニケーションの場となっている	年6回を目安に運営推進会議を開催し、利用状況や日常の生活の様子など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かせるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緊急時だけではなく、随時電話連絡を取り、情報を頂き常に連携を図っている	日常業務を通じて相談や助言を得たり、情報交換等で協力関係を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯のみ防犯上玄関施錠を行い職員間で入居者の情報を共有し身体拘束をしないケアを実施している	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	自己の判断で行動せず常に、他の職員の意見も聞き防止に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	誰でも参加できるよう研修の案内を公開して、専門職としてのスキルアップに努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容については理解いただけていると思うが、わからない場合は何度でも説明するよう心がけている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族訪問時に、文章や口頭で入居者の様子を伝えることで要望などを聞く機会を持つようにしている	家族等の来訪が多く、希望や要望等を言い表せる機会を設けて、そこでの意見や要望等を運営に反映するよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た意見を月二回の会議等で話し合い、反映出来る様心がけている	日常業務等を通じて職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設け、運営に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休み希望等は出来る範囲で取り入れるようにしている。又、賃金では、資格・経験年数等を考慮し段階を儲け見直されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員間で差が出ない様指導し、研修等の情報提供も伝えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内GH連絡協議会等の研究に参加、又、包括センター等と連絡を取り、サービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	症状により異なるが、訴える事が出来ない入居者に対しても、安心して過ごせる環境・関係作りが出来る様努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の状態と今の状態とは違う事を家族に伝えながら、必要としていることを共に考えながら関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居に対する考えは、利用者・家族共に同じではなく、今何が必要なのか、そして相互が無理なく関わりを持てるような情報提供に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個性を大切に、その人らしく生活出来る様、共に過ごす時間を作っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも訪問できる環境・雰囲気作りに努めている。訪問によって本人の精神面を支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の事情により外出・外泊は難しいが、墓参りやホームの行事等で外出する機会が持てるよう支援している	お墓参りや行事参加など馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同志うまく関わる事が出来ない方もいるが、職員が間に入ることで行事等の共同作業が出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要事、スタッフ会議等を開き臨時情報提供を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の支援や・行事等を通し交流を深めて、入居者それぞれの希望に添える様努めている	本人や家族からの希望や意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活からホームの生活に変わってきているが、今後も出来る範囲で情報を把握し入居後の対応に役立てる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムや体調を把握し、急変時にも対応出来る様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の体調の変化に合わせ、定期的にプランの見直し、今出来る事を計画作成するように努めている	本人、家族の意見や要望、モニタリングやカンファレンスを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、アセスメントの強化を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、記録等を通し職員間で入居者の情報を共有し支援に活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本のサービスを元に支援し、日々の実践の中で生まれる新しいニーズに対応出来る範囲で支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	限られる戸外での活動を個々の能力に合わせ、楽しみながら出来る様に支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診のほか、体調不良時など連携を図り受診、または他医療機関へも受診している	往診や訪問看護との連携、通院への支援で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1の医療連携・緊急時は連絡をし訪問を受けている。必要時看護婦を通してDrより適切なアドバイスを受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、定期的に訪問しご本人の状態確認の他、病院側とも情報交換出来る様対応している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族やご本人の意向をふまえ、支援について事前に話す機会を作っている。又、医療機関との連携も図れる様努めている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、方針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の連絡・対応については講習を受けたり、文章化したものを掲示、又備えについても定期的に日々話し合いをしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練は入居者も参加し年2回実施、天災時等の避難については、近くの同法人施設と連携を図るようにし、備蓄管理も行っている。	消防署の協力を得て、年2回の火災避難訓練を実施している。また、スプリンクラーや火災報知器、通報装置等の設備を完備し、定期点検も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各入居者の精神状況等も考慮し、解りやすい言葉を選んで声掛けする様心掛けている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細な事でも自分で選択できるような働き掛けを心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムが出来上がっている中で、空いている時間を埋める様に合わせ一日を過ごせるよう声掛けしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等、ご本人が好みの物を着用しているが、適切ではない時声掛けしている。又、自分で用意出来ない入居者については支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの多い入居者には代用品を付け提供。おかずの盛り付け・食器拭き等など出来る能力に合わせ行えるよう支援している	一人ひとりの力に合わせて職員と一緒に食事の準備や調理、後片付けや食器拭き等支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の身体状況を把握し、水分がうまく摂れない場合はゼリー等で対応している。同じ献立でも食事の形状を工夫し摂取できるように取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来ない場合は、スタッフが口腔ケアを実施、出来る入居者には声掛けし清潔保持に努めている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	能力に応じ、トイレでの排泄を行う様にしている。排泄パターンを検討しながら支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導等でトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘だけではなく、下痢しやすい人も把握しておく。身体に良い食物繊維や内服薬も併用し、排泄パターンの把握に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な曜日・時間は決まっているが、その日に入りたくない人もいるので、曜日変更等をして対応している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて柔軟な入浴支援をしている。また、拒否の強い本人にも対応した支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後には傾眠をとって頂くよう促し、リビングにいて落ち着く方を見守りしながら過ごして頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬変更等があった場合は薬の副作用等を職員に説明し、服薬後の経過観察は勿論、体調の変化があった場合に対処出来る様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中での支援。又、レクや行事の手伝い等を通し気分転換出来る様な支援している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族対応にて、墓参りなど外出の機会を持っている。又、通院同行・季節行事で外出など実施し、支援している。	一人ひとりのその日の希望にそって、通院時のドライブや季節毎の行事開催などで戸外に出かけられるよう支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望はなく所持されている方はいないが、日常品等必要な物は買い物代行し、品物の受け渡しなど行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話をかける人はいないが、訴えがあれば支援する。手紙や葉書など来ることがあり、それに対し返事を出せよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の壁を使用し月行事や行った事等、季節感も取り入れる様工夫している。各自が集まり過ごせる場所も自分の居場所であると共に安全に過ごせる場所でもあるよう安心感が持てるよう努めている。	共用空間は、利用者にとって、気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングでは一人になったり談笑ができるように椅子やソファが配置されて本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空いているスペースに椅子を置き、それぞれが自由に使用できるようにして、職員が間に入ったり、他入居者に声掛けしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の私物は勿論、自宅で生活していた時の様に自由に過ごせる様工夫している。	家族と相談しながら使い慣れた家具や身の回りの品が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレなど共有場所の掲示を行っている。又、出来る事を確認して手伝って頂いたりする場合、安全を考慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさと

作成日: 平成 27年 2 月 16 日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	職員のスキルアップを目指してはいるが、日々の仕事に追われ、職員の入れ替わりもあって現状では難しい。	各自でも、専門性を高める様努力する。	実践を通した支援や講習会に参加する。	12か月
2	38	職員側の都合を優先にしてしまう場面がみられ、当人達の希望に添えない事がある。	言い方に気を付けて、当人達からのやる気を引き出す様努める。	行事や日々の生活の中で楽しめる様、一緒に考え取り組んでいく。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。